

◆研修会特集◆

業者による講習会の経験② eナーストレーナー

山田 理佳

I. 看護部との連携（2017年9月初旬）

看護部でのeラーニング導入に関して看護副部長より相談を受け、電子リソースに不慣れな看護師でも利用が容易である医学書院の「eナーストレーナー」を導入することとなった。看護部より病院へと予算が変更した際、看護師以外への公開も提案したところ、「eラーニングプロジェクト」にオブザーバーとして参加することとなった。医学書院との連絡や利用説明などが主な役割である。

II. 「研修企画者用説明会」企画（12月初旬）

プロジェクト会議にて、当院仕様への改訂や、研修プログラム作成をおこなう管理職への講習会を企画することとなった。

III. 事前準備（12月初旬）

使用する「多目的ホール」を仮予約後、医学書院の大谷氏に打診し、日時を決定した。事前に出席者数や内容を伝え、パンフレットなどの資料を依頼すると共に、欠席者用のビデオ撮影の許可をいただいた。また、必要機材を確認し、関係部署に依頼した。

IV. 開催当日（2018年2月5日）

当日は資料配布の補助と、医学書院の大谷氏の出迎えを担当した。それ以外の準備は看護部が整えた。3人掛けテーブルが横6列縦10列ほど並べられる広さのホールのうち、横4列縦6列を使用した。17時10分に看護副部長の挨拶のあと、大谷氏作成のPowerPointをプロジェクターと左右の大型テレビに投影して説明会が開始された。業務の都合で、最初6割強ほどの出席だったが、最終的には8割ほどとなった。質疑応答を含め40分ほどで終了。個別に質問もあったが、18時には解散となった。

V. 説明会中の様子で気がついたこと

PowerPointの文字が小さく、手元の資料を見ている参加者が多かったため、事前に開場の規模を伝えておくことも必要と思った。他には、初めてのeラーニングで戸惑っている様子があったため、事前の資料配布で不安を軽減できたのではと思った。

VI. 看護部との連携と講習会の成果

看護の実際を学べる機会を得て、看護部との対話・情報交換が増えた。また業者との連絡が密となり、質問・提案・情報の入手がしやすくなった。今回の経験を生かし、医師やコメディカルへの講習会も企画したい。

YAMADA Rika

京都第一赤十字病院 総務課 図書室

TEL : 075-561-1121(代) FAX : 075-561-6308(代)